

## 令和 3 年度 学校評価報告書（総表）

1 学校の概要			
学校名	筑波大学附属久里浜特別支援学校	校長名	西垣 昌欣
幼児・児童・生徒数（R4.3.1現在）	51	学級数	18
2 教育目標等			
① 学校教育目標	<p>○子供一人一人の思いや個性を大切にし、障害特性等に応じた指導を通して、主体的に考え、判断し、表現する力と態度を育成する。</p> <p>目指す子供像：人との関わりを楽しむ子、自分なりに考え行動する子、自分の考えや思いを表現する子</p>		
② 学校経営方針	<p>○附属学校として果たすべき使命を遂行するため、教職員の協働体制を再構築し、保護者や関係者と連携を図りながら、子供一人一人を確かに育てる教育を追究する。</p> <p>(1) 筑波大学の教育・研究及び事業への貢献</p> <p>(2) 先導的で高度な教育・研究の展開と成果の発信 ※自立活動の指導の充実、各教科等の指導の明確化</p> <p>(3) 安心・安全で信頼される学校づくり</p> <p>(4) 役割の遂行と決まりの遵守 ※教職員間の関係を良好に保つ</p> <p>(5) 教職員の専門性の向上</p>		
③ 重点目標	<p>○知的障害を伴う自閉症の子供の障害特性等に応じた指導の在り方について近年の研究成果を整理し、教職員間で共有するとともに、書籍化に向けた企画案を作成する。</p> <p>○知的障害を伴う自閉症の子供の見方・捉え方を高めていくために効果的な研修の在り方を検討し、研修プログラム案を作成する。</p> <p>○学校暦に対応させた変形労働時間制に基づく勤務形態と必要最小限の時間外勤務との組合せにより、教育活動を効果的に実施できるようにする。</p> <p>○ハラスメント研修や対話技法研修に取り組み、職場内のルール等も逐次確認しながら教職員間の関係性を良好に保つようにする。</p>		
④ 前年度（令和2年度）の成果と課題	<p>(成果)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・コロナ禍のもと、オンラインを活用して校務分掌の業務や授業検討、研究活動を継続することができた。研究活動の成果は、実践研究集録にまとめることができた。</li> <li>・筑波大学等の教員とオンラインケース会等を実施し、助言を受けるなどしながら授業改善に取り組み、関係機関との連携を進めた。複数の院生研究及び教育実習に協力することができた。</li> <li>・教職員の職場滞在時間を、前年度より大幅に縮減することができた。</li> <li>・児童相談所や警察など地域の関係機関と連携し、要保護児童に対処することができた。</li> <li>・自校式給食に円滑に移行することができた。</li> </ul> <p>(課題)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・校務分掌を再編したものの、副校長の不在や行事の中止等が影響し、業務分担の適切性や効果を検証することが難しかった。</li> <li>・実践研究協議会の開催を取り止めるなどしたこともあり、対外発信についても例年より弱くなった。</li> <li>・地域に開く行事の中止や広報誌の郵送中止などが重なり、対外的な広報活動を拡充するより、むしろ縮小する結果となった。</li> </ul>		

### 3 重点目標達成についての総括的評価

- ・幼稚園と小学部を設置する特別支援学校における自立活動の指導の重要性を校内で再確認した上で実践研究に取り組み、研究の成果をまとめて自閉症教育実践研究協議会で対外的に発表するとともに、研究集録も刊行し、関係諸機関等に配布した。
- ・従来のアセスメント研修に加え、カード整理法を交えたミーティング研修を取り入れ、個別の指導計画の作成過程における情報整理や合意形成の新たな手法を共有することができた。
- ・勤務時間の長・短を組み合わせた変形労働時間制に基づく勤務管理を実施し、時間外勤務の発生を抑制しながら1年間の試行を経て、費用面の見通しをもつことができた。
- ・コロナ禍において、感染拡大防止策を実施しながらできる限り教育活動を保障し、行事等の中止を回避することができた。

### 4 令和4年度の学校課題

- ・正規採用者の拡充及び人事交流の新規開拓を進め、教員の確保と指導体制の維持に努める必要がある。
- ・授業時数の把握や教育課程の明確化など、教務上の課題に取り組む必要がある。
- ・定員未充足の解消に向けて、学級編制や入学選考の見直しが必要である。地域支援にも取り組む必要がある。
- ・中学部への移行を踏まえた取組を改めて検討し、教育課程の見直しを進める必要がある。

### 5 学校課題に向けての具体的な取り組み

- 各教科等を合わせた指導を検証する作業を通して、各単元を構成する要素を明確にする（特に生活科を中心に進める）。
- 幼稚園の学級編制を見直して適性な定員に改編するとともに、地域支援の新たな事業にも取り組む。
- 教職員の補充を計画的に進めるとともに、人事交流の新規開拓を図る。
- 公立特別支援学校との交流を通じて、中学部への移行を円滑に実施する。
- 学校暦に対応させた変形労働時間制に基づく勤務形態と必要最小限の時間外勤務との組合せにより、教育活動を効果的に実施できるようにする。
- ハラスメント研修等に取り組み、職場内のルール等も逐次確認しながら教職員間の関係性を良好に保つようにする。

### 6 成果物一覧（出版物・紀要・書籍等）

- 令和3年度自閉症教育実践研究協議会 実践研究集録

# 学校評価（自己評価）報告書（項目別表）

令和 3 年度

学校名

筑波大学附属久里浜特別支援学校

項番	評価項目	具体的評価結果
1-2-1	学校の教育課程の編成・実施の考え方についての教職員間の共通理解の状況	①授業研究や授業づくり検討会等において、教育課程の観点から意見交換を行い、本校の教育課程編成における課題を共有することができた。 ②幼児児童一人一人の実態に応じた指導計画を基に、指導の場や人、授業の枠組みを確認しながら、特に教育経験や知的障害教育の経験が少ない教職員の理解促進に努めることができた。
1-2-8	学習指導要領等の基準ののっとり、児童生徒の発達段階に即した指導の状況	①専門性の高い教員がメンターとなって、PEP- 3（自閉児発達障害児教育診断検査・三訂版）や新版 K 式発達検査、感覚プロフィールなど、アセスメント結果の分析を研修を進め、検査の分析結果を日常の指導に活かす試みに取り組んだ。 ② PEP- 3 日本版開発の外部専門家をスーパーバイザーとして招聘し、指導・助言を仰いで、指導の充実を図った。 ③授業研究会において、筑波大学人間系野呂文行教授に指導・助言を仰ぎ、指導の改善に取り組んだ。
5-1-5	安全点検（通学路の安全点検を含む）や、教職員・児童生徒の安全対応能力の向上を図るための取組の状況	①安全点検を定期的実施し、異常を発見した箇所は、事務職員と協力して迅速に対処・改善することができた。 ②附属学校教育局や学校医の協力を得ながら、新型コロナ対策を講じ、校内における感染拡大を抑えることができた。
7-1-2	校務分掌や主任制等が適切に機能するなど、学校の明確な運営・責任体制の整備の状況	①企画調整会議で、定期的に各分掌部の活動状況や企画の進捗状況を確認し、調整を図ることで校務を円滑に運営することができた。 ②年度途中での全体反省は 3 学期へずれ込んでしまったが、主事会を中心に情報共有を行うことで、調整を行うことができた。
7-1-5	勤務時間管理や職専免研修の承認状況等、サービス監督の状況	①事務と管理職でタイムカードを定期的にチェックし、勤怠管理の徹底を図ることができた。 ②時間外勤務の必要性を適宜判断するとともに、手当の執行状況を確認し、時間外勤務の予算を超えないよう調整を行った。 ③労働に関する法令については、年度初めに研修会を行い、教職員間で基本的な共通理解を図ることができた。
7-1-99	組織運営	①教職員の状況に応じて、面談を適宜実施した。 ②対話的技法の研修を行い、教員同士が話しやすくなる雰囲気づくりに努めた。 ③主事会を中心に、フォローが必要な場面や業務に関わる情報を共有し、対応に当たるようにした。
8-1-3	校内研修の課題の設定の状況	知的障害を伴う自閉症の子供を指導するために求められる教師の専門性を分析し、専門性を高めるために必要な研修内容を整理及び再構成するため、現職教員研修や公開講座等で提供する内容を整理を行った。

10-1-6	情報提供手段として、ホームページを活用するなど、広く周知するための工夫の状況	ホームページ全体を再構築し、見やすく、探しやすい構成にした。また、日常の教育活動を紹介する記事や写真を、逐次更新するようにした。
14-1-3	先導的教育研究	<p>①課題を導き出すプロセスに基づく授業づくりを校内研究の柱とし、自立活動の指導事例を幼稚部、小学部低学年、小学部高学年から出し、実践研究協議会をオンライン開催し、全国の知的障害特別支援学校を中心に発表を行った。</p> <p>②カード整理法を用いて教育経験の少ない教員や人事交流者の知的障害を伴う自閉症教育への理解促進、及び指導力向上を図った。</p> <p>③自閉症教育実践研究協議会の記録を含めて研究集録を作成し、参加者へ発送するとともに、一般公開（学校 HP に掲載）した。</p>
14-1-5	国際交流・国際貢献	昨年度に続き、コロナ禍で海外からの視察者がいなかった。従来の国際交流事業が、視察者ありきの受け身の姿勢で行ってきた点に課題があり、今後改める必要がある。